

ネイチャーおおさか住民監査請求「陳述」

ネイチャーおおさか（公益社団法人 大阪自然環境保全協会）が4月7日に提出した「夢洲における大阪・関西万博の工事着手までに行われる大阪港湾局の工事による環境損壊を不当とする住民監査請求」陳述が、昨日22日に行われた。会場は大阪市役所4階の行政委員会事務局会議室であり、早めに行って傍聴した。「大阪市廃止・特別区設置」の是非を問う住民投票に対する住民監査請求で緊張して10分間、陳述したときを思い起こした。

18日にレポートで紹介したように、請求の対象となる財務会計上の事実は、大阪港湾局が実施している大阪・関西万博のウォーターワールド予定地（夢洲2区）の埋立て、地盤改良工事に係る契約行為及び経費の執行である。

陳述はパワーポイントを使って行われ、夢洲が生物多様性のホットスポットであり、港湾局の工事が貴重な環境を損壊することをビジュアルに示した。万博の環境影響評価に対する「市長意見」に反するもので、不当な港湾局の工事の即時中止、ロードマップの作成を求めた。

写真下は「夢洲フォトアルバム 2019-2022」第2版。夢洲は大阪湾の宝、野鳥園臨港緑地（旧・南港野鳥園）とともに、ラムサール条約登録をめざしましょう！と呼びかけている。「40年前から埋め立てられ始めた大阪湾の人工島『夢洲』では、次第に埋め立てられていく土地に草が生え、昆虫が棲み、鳥が集い、多様な生態系が生まれてきていました。この生物多様性豊かな環境は、大阪に偶然できた『たからもの』です。しかし、現在、2025年万博のために急速に開発が進む夢洲。

ここで生きるものたちはどこにいけばいいのでしょうか？ 絶滅が危惧される生きものたちのほとんどは、夢洲で埋め立てが行われている万博予定地の池・湿地・ヨシ原で生息していました。が、半年のイベントのために、今、未来を奪われつつあります。」

「大阪湾の宝」である夢洲の自然が、万博の建設工事前の大阪港湾局による埋立て、地盤改良工事で損壊されることに対する監査請求である。陳述のあと、監査委員からは工事と「市長意見」の時間的ずれ、請求の趣旨などについて質問があった。工事に係る契約行為や財務会計上の問題について、監査委員から質問・指摘があると考えていたが、何もなく終わった。夢洲についての環境団体による監査請求として、注目していきたい。

(2022年4月23日)

